

## 正確なコントロールが光る 希望郷いわて国体ペタンク

希望郷いわて国体デモンストレーションスポーツペタンクは4日、北上総合運動公園で行われました。同競技は、国体開催を契機にスポーツの普及と振興を図るデモンストレーションスポーツの一つとして開催。県内外から102チーム306人が参加しました。

ボールを投げ、相手よりビュット(目標球)に近い数が得点になる同競技。参加者は緻密な作戦の下、正確なコントロールを競いました。伊藤茂子さん(滑田)は「上位は厳しいけど楽しみたい」と話していました。

狙うビュットに向けてボールを投げ、得点を狙う参加者



当時の資料や今大会のパンフレットを思い思いに眺める来場者

## 昭和45年岩手国体を振り返る 図書館収蔵資料展

図書館収蔵資料展は8月30日から9月4日の間、中央図書館で開催されました。同展では、10月に開催される希望郷いわて国体・大会に合わせ、昭和45年に行われた岩手国体のプログラムや写真などを展示。来場者は興味深げに資料を鑑賞していました。

3日には、前国体の市実行委員会が制作した公式記録映像「躍進きたかみ」を上映。鑑賞した千田伸生さん(81歳・二子町)は「懐かしく感じた。今回は花いっぱい運動で盛り上げたい」と話していました。

## 味と見た目楽しんで 国体PR茶わんでお点前を披露

黒沢尻北高校茶道部によるお点前披露は8月27日・28日の両日、同校文化祭の一部として行われました。お点前では、同校卒業生で茶道家の田村和子さん(諏訪町)から寄贈された希望郷いわて国体・大会にちなんだ茶わんを使用。茶わんの側面には同国体・大会PRキャラクターの「わんこ兄弟」が描かれており、味と見た目由来場者を楽しませました。

茶わんを受け取った菅原杏さん(黒沢尻東小1年)は「わんこ兄弟の絵がかわいい」と話していました。

使用された茶わん。炬火を持ったわんこ兄弟がデザインされています



捕まえた生き物についての佐々木さん(左)の説明に聞き入る子どもたち

## 身近な自然で発見 森の科学探検隊

森の科学探検隊は8月27日、みちのく民俗村で行われました。同イベントは、野外活動で自然の楽しさや大切さを発見することを目的に、(株)東芝と(株)ジャパンセミコンダクターが毎年開催しています。

参加者は、プロの自然案内人である佐々木洋さんと村内を散策。道中で見つけた生き物について佐々木さんが解説すると熱心に耳を傾けていました。池田陽明くん(鬼柳小4年)と友明くん(同小1年)は「バッタとコオロギを捕まえて観察できた」と話していました。

## 日頃の訓練成果を発揮 全国消防救助技術大会入賞

第45回全国消防救助技術大会は8月24日、愛媛県松山市で開催され、北上地区消防組合から出場した三浦昭さん、高橋壯汰さん組が8位に入賞しました。2人が出場したのは、15mのロープを一人が支えもう一人がそのロープを垂直に登る速さを競う「ロープ応用登はん」の部。訓練の成果を発揮し、東北地方から出場したチームの中では最高の成績を収めました。

2人は8月26日に市役所を訪れ、高橋市長に入賞を報告。更なる技術向上に意欲を見せていました。

高橋市長に入賞を報告した三浦さん(中央)と高橋さん(左)



さといもを積んだトラックの前でテープカットを行う関係者

## 秋の味覚をお届け

### 平成28年度二子さといも初出荷式

平成28年度二子さといも初出荷式は6日、JAいわて花巻北上地域営農センターで行われました。

式では、JAいわて花巻の高橋勉副組合長が「二子さといもは地域の伝統文化。生産し続けることで地域の活性化にもつながるので、生産者の皆さんには今後も協力をお願いしたい」とあいさつ。その後、関係者によるテープカットが行われ、さといもを積んだトラックの出発を見送りました。式終了後には芋の子汁が振る舞われ、出席者は秋の味覚を堪能しました。

## 環境を考えるきっかけに オーガニックフェスタinいわて2016

オーガニックフェスタinいわて2016は3日・4日の両日、市立公園展勝地で開催されました。会場では、有機農業による農産物などを販売したほか、再生可能エネルギーワークショップなどを実施。また、みちのく民俗村を会場に有機農業に関するセミナーなどが行われました。4日には、歌手で島根県の有機農業大使も務める加藤登紀子さんによるトークライブを開催。加藤さんが農業に関する経験談を織り交ぜ歌を披露すると、客席からは大きな拍手が起こりました。

歌を披露する加藤さん(右)。たくさんのお客様が聞き入っていました



参加者を傷病者に見立て、重症度を判定するDMAT隊員

## 災害時に備えて 北上市総合防災訓練

北上市総合防災訓練は3日、飯豊地区を中心に行われました。全市民を対象に地震発生を想定した一斉行動訓練のほか、飯豊地区交流センターを主会場に参加体験型訓練を実施。AEDを使用した応急救護訓練や放水消火体験などに市民が参加しました。

今回は、災害発生時に傷病者を重症度で区分するトリアージ訓練を初めて実施。県立中部病院のDMAT(災害派遣医療チーム)による重症度の判定基準などの説明に、参加者は真剣に聞き入っていました。